

2019年6月11日

日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会ワーキンググループ

日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会 歴史遺産を生かした地域活性化、観光振興戦略（案）

兵庫県姫路市、福崎町、市川町、神河町、朝来市、養父市の6市町にまたがり、我が国屈指の鉱山遺産群から生まれたストーリー「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」が2017年4月、日本遺産の認定を受けました。この地域には、日本の近代化を支えた鉱山群があり、そして、飾磨港へ、さらに中瀬へと貫く全長73kmの道があり、多くの人、物資が行き交い、交流が生まれる中で、ここにしかない文化が育まれました。先人から今に、大切に受け継がれています。日本遺産認定を機に、これらの記憶を見つめながら、資源の魅力の再発見に努め、地元住民が地域の宝として誇りに感じられるよう、次世代に継承していきます。まず、地域の人たちが地元の歴史を知り、地域資源を知り、誇りを持つことで、資源の魅力は一層磨かれ、輝きは増します。それらの資源を、兵庫県内、近畿地方をはじめ、全国、海外に広く発信することで、今以上の観光客を招き、地域や地域経済の振興につなげていきます。播但地域の6市町が、それぞれの実情に応じた形で資源や遺産等を活用しながら、地域活性化や観光面での自走につながるよう、中長期的な取り組みを策定します。

ビジョン

日本の近代化を支えた鉱山文化・歴史遺産が残る73kmの「道」を
次世代につなぎ、持続可能な播但地域を目指します。

対象期間

2017年～2026年
(日本遺産認定から10年間)

基本方針

1. 多種多様な鉱山文化や歴史遺産の魅力を発掘、「見える化」し、活用します。
2. 地域ならではの魅力を掘り起こし、磨き、継承することで、そこに住まう一人一人の誇りを高めます。
3. 「ここにしかない」魅力を地域が知り、内外に向けて発信することでその価値を共有します。
4. 人々が行き交い、地域や地域経済の活性化、観光振興につながる仕組み、体制を整えます。
5. 南北の観光動線を創出し、滞在環境の整備を進めます。

日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会が目指す活性化モデル



人、モノ、カネ、情報の循環による持続可能な地域の実現へ

具体的取り組み例

日本遺産「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」の魅力を高め、地域活性化、観光振興につながる事業について、以下に挙げる事業等を推進するとともに、常に時代のニーズにあわせた取り組みを検討し、実行に移します。

※（ ）内は協議会における既実施事業の事業年度

1. 多種多様な鉱山文化や歴史遺産の魅力を発掘、「見える化」し、活用します

- ・金・銀・銅文化プロジェクト（H29、H30年度）
- ・馬車道復活事業（H29、H30年度）
- ・一円電車復活事業
- ・非公開ゾーンでの特別公開イベント、企画
- ・鉱山、鉱山文化に関するエピソードの発掘、掘り起こし
- ・岩津ネギなど鉱山文化に関連する食材、みやげ物のストーリー開発
- ・VRやCG等を活用し、仮想映像による往時の馬車道・鉱石の道の再現

等

2. 「ここにしかない」魅力を地域が知り、内外に向けて発信することでその価値を共有します

- ・日本遺産認定シンポジウム（H29年度）
- ・住民参加型ワークショップ
- ・現地ガイド等の人材育成（H30年度）
- ・日本遺産を担う住民グループの立ち上げ
- ・グルメスポットの掘り起こし、グルメ開発、プロモーション
- ・特産品等の商品開発、ネット通販
- ・6市町の高校生をつなぐ日本遺産生徒会サミットの開催、共同研究
- ・小学生向け副読本の製作（H30年度）とシビックプライドを形成する教育
- ・新聞の地方版等を活用した、次代を担う小・中学生らへの教育展開
- ・高校生らによる観光振興プランコンテストの実施、研究成果の実現

等

3. 「ここにしかない」魅力を地域内外に向けて発信し、その価値を共有します

- ・ターゲットに応じた戦略的プロモーション（H29、H30年度）
- ・公式ホームページ制作（H29年度）
- ・公式フェイスブック、インスタグラムの開設（H29、H30年度）

- ・旅行会社向けツーリズム素材集及びリーフレット作成（H29年度）
- ・観光客向け無料配布ガイドブックの制作検討
- ・銀の馬車道・鉾石の道の映像制作（H29年度）
- ・雑誌を活用したプロモーション（H29年度）
- ・キャラバン隊でのPR（H30年度）
- ・ノベルティグッズの開発
- ・ロゴの作成を通じたビジョンの共有（H30年度）
- ・ほかの日本遺産認定地との差別化、ネットワーク化
- ・共同シンポ、サミットの開催（「道」「鉾山」などを切り口に）
- ・共同ツアープランの考案、姉妹日本遺産都市の実現
- ・カフェなどを併設した観光案内所・日本遺産センターの設立
- ・インバウンド対策。多言語化、インフルエンサーら招聘

等

4. 人が行き交い、地域の活性化につながる仕組み、体制を整えます

- ・マーケティング調査（H29年度）
- ・ツーリズム実証化事業
- ・DMOなどまちづくり観光組織の調査、整備
- ・クラウドファンディングの活用
- ・ふるさと納税の活用

等

5. 南北の観光動線を創出し、滞在環境の整備を進めます

- ・73kmウォーキング・サイクリング事業（H29、H30年度）
- ・ウォーキング・サイクリングコースの開発、マップ作成
- ・案内看板・サインの設置（H30年度）
- ・古民家の調査、活用検討
- ・修景等の手法を用いた景観地域の整備
- ・フォトジェニックスポットの選定、発信
- ・観光資源のルート化、オリジナル旅行プランの作成
- ・姫路城、竹田城跡、城崎温泉など、既存の観光施設を組み合わせた旅ルートの提案
- ・「73」をキーワードとしたイベント（7月3日・日本遺産の日に制定、73人聖火リレー等）

等

優先すべきターゲット

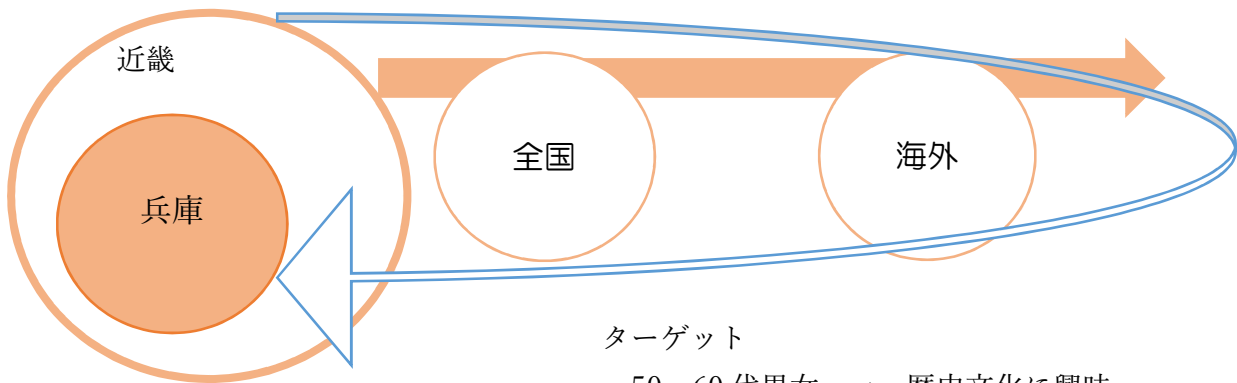
まずは地元住民の意識、誇りを高め、全国の顧客層へ情報発信する。さらに海外に向けて、SNSを通じ人気に火がつくブーメラン効果も想定した情報発信を行う。

<国内旅行者>

- ・兵庫県及び近畿圏内在住の50～60代男女。歴史文化に興味関心を持つ層
- ・兵庫県及び近畿圏内在住の20～30代女性。グルメ、景観、地域ならではの体験に興味関心を持つ層

<海外旅行者>

- ・個人旅行者（FIT）
- ・欧州、北米在住で歴史文化に興味関心を持つ層
- ・中国、台湾、韓国、タイ等アジア在住で、景観、地域ならではの体験、買い物等に興味関心を持つ層



ターゲット

- ・50～60代男女 → 歴史文化に興味
- ・20～30代女性 → グルメ、体験に興味

ターゲット	課題
50～60代男女	<ul style="list-style-type: none">・歴史文化遺産の活用、ストーリー化・お金、時間に余裕のある人向けにプレミアム旅提案・子ども、孫へのお土産開発
20～30代女性	<ul style="list-style-type: none">・体験→掘り起こしへの誘導・グルメ→開発、発掘。地元の名店、隠れた名物掘り起こし・車以外で回れるルート考案。JR播但線、バスなど利用
インバウンド 外国人観光客	<ul style="list-style-type: none">・ブロッガー、インフルエンサー活用・体験（ここでしかできないもの）の提示・宿泊施設（民泊など含め）の拡充・多言語対応

プロモーションの考え方

- ・一過性ではない、継続的な取り組みにつながるプロモーション展開を目指します。
- ・まずは、地元住民の意識醸成を中心としたインナープロモーションを推進しながら、日本遺産「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」に対する地域住民の誇りを高めます。
- ・地元住民の愛着を高め、官民、地域が一体となりながら、兵庫県内、近畿圏内、そして、全国、インバウンドへの発信に努めます。
- ・SNSの普及で、外国人から人気に火がつき、日本人に広がるケースも多いため、インバウンド対策も重点項目とします。
- ・プロモーション目的、内容等により、想定ターゲットを踏まえた方法論を検討します。
- ・ウェブ、ソーシャルメディア（Facebook、Instagram）、マスメディア（新聞、雑誌、テレビ、ラジオ）、交通広告、ツアー、イベント、キャラバン等の各種手法を効果的に活用します。
- ・顧客の興味関心を引き、検索行動、来訪・購入等につなげ、情報の共有拡散を図ります。

重要業績評価指標（KPI）

- ・ウェブサイトアクセス数（PV）、ユニークユーザー数（UU）、SNS「いいね数」、シェア数等
- ・各施設入り込み客数
- ・イベント参加者数
- ・宿泊施設数、宿泊者数
- ・公共交通機関の利用者数（状況に応じて）
- ・来訪者満足度、地元住民の認知度、意識（必要に応じ、取組みに成果をみるために実施）

今後の検討課題

- ・インナーブランディングの推進
- ・PDCAサイクルの構築
- ・収益事業が実施可能な主体の検討
- ・補助金が切れた後の資金調達（ファンドの組成、活用など）
- ・DMOなど観光まちづくり組織の設立
- ・民間、地域住民との連携
- ・来訪者、地元住民に対する提供価値の検討
- ・効果測定可能なデータ収集とモニタリング体制の構築
- ・ほかの日本遺産認定地との差別化、交流拡大
- ・日本遺産の構成文化財に加え、地域資源の見える化

戦略案の策定にあたって

日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会では、平成29年度に協議会の行動指針・戦略立案に向けたワーキンググループを設置、協議会構成団体の担当者に有識者を加えた作業部会として活動してまいりました。

国（文化庁）からの補助事業である、日本遺産魅力発信事業の事業期間（3ヵ年）が終了した後の4年目以降に向けて、地域活性化・観光振興のために欠かせない組織化、財源確保、地域資源活用を中心に協議し、有識者を加えた勉強会を重ね、戦略案としてまとめたものを平成30年度の協議会総会で中間報告いたしました。

その後事業の進捗、検証結果を踏まえて戦略案を改善し、あらためて令和元年度総会において報告するものです。

（有識者メンバー）

○関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科・西本凌教授

（民間を活用した財源確保・組織のあり方について指導）

○甲南大学経営学部・西村順二教授

（マーケティング的視点からの地域活性化策について指導）

○神戸大学大学院人文学研究科・奥村弘教授

（歴史・文化財を生かした地域活性化策について指導）